

# 国土地理院における測地 VLBI 観測の次世代化

## The next generation of geodetic VLBI observation at GSI

# 高島 和宏[1]; 辻 宏道[1]; 町田 守人[1]; 和田 弘人[1]; 栗原 忍[1]; 堤 隆司[1]; 石本 正芳[1]

# Kazuhiro Takashima[1]; Hiromichi Tsuji[1]; Morito Machida[1]; Kozin Wada[1]; Shinobu Kurihara[1]; Takashi Tsutsumi[1]; Masayoshi Ishimoto[1]

[1] 地理院

[1] GSI

<http://vlbldb.gsi.go.jp/sokuchi/vlbi/>

国土地理院では、国内4箇所にあるVLBI観測局(GARNET)を用いて、定期的な測地VLBI観測(JADE実験)を行っている。また、1999年9月以降、天文台水沢、岐阜大、北大苫小牧、通総研鹿島、通総研小金井、宇宙研臼田、山口大との共同測地VLBI観測も行っている。

従来、VLBI観測では磁気テープベースでのデータ記録方式(K-4)を使用して来たため、観測後の相関処理は、国土地理院または通信総合研究所鹿島に設置されている専用のKSP型相関処理装置を用いて行う必要があった。2004年3月に、国土地理院の各観測局には、ハードディスク記録方式(K-5)の観測システムを整備した。これにより、効率の良い記録が可能となるだけでなく、PCによるソフトウェア相関処理も可能となり、分散処理技術などを導入することで、処理能力を飛躍的に向上させることができる。また、観測結果の早期提供が可能となることで、他分野への応用範囲の拡大も期待できる。

本講演では、国土地理院における測地VLBI観測の次世代化の現状、計画及び課題を報告する。